

君が入った『経済学部』とはどんな学部だろうか。

石井 伸男

キャンパスに桜の花が舞うころ、今年高崎経済大学に入学したA君は、ある教授を探して研究棟の中をウロウロしている。自分の語学クラスに相談役として就いてくれた「フレッシュユマン・アドバイザー」の先生に話を聞こうと、部屋を探しているのだ。A君はやっと求める先生の研究室をみつけ、中に入れてもらった。

教授 やあ、君の顔はおぼえているよ。今日は何を聞きに来たの？

学生 あのこと、まだ大学の経済学部って、どんな学部なのかばくせんとしていっているんです。もともと理科系志望だったので社会科学系になじみがないので、なにかアドバイスしてもらえないかなって思っています……。

教授 そうだね。いろいろあるほかの学問分野や学部と、経済学部はどう違うかをハッキリさせて、気持ちを整理したいということかな？

学生 そんなところです。たくさんあるカリキュラムをどう取ったらいいか迷うし……。

教授 わかった。ではまず君は、経済や経営をどんな種類のことだと考えているの？

学生 うーん。いきなり来ましたね。……経済とはお金の出し入れとか、生

活に必要なモノを作ることかな。そして経営とは、企業を運営するやりかたでしょうか。

教授 当たらずとも遠からずだろうな。経済とは、富の社会的再生産過程、あるいは希少資源を最適に分配することなどといわれる。経営は企業などの管理や組織に関わる仕組みや方式をいうのだろう。立ち入った解説はほかの先生方にまかせるとして（内心逃げ気味か）、エヘン、経済学や経営学が社会科学の一分野だということは知っているよね？

学生 ええ、それは一応は。

教授 それでは社会科学の成立を、少し歴史的に整理して跡づけて考えてみよう。まず古代ギリシャで世界の宗教的説明から理性的説明が別れて登場した。これは哲学という形を取った。哲学は理性を使って世界観をあつかう学

問だが、必ずしも実証的ではない。科学、サイエンスは実証をとまなう学問だ。ここまでではわかる？

学生

はあ…、なんとなくは。

教授

科学は近代初期に自然科学として成立した。その代表は一七世紀のニュートン物理学などだ。社会科学が自然科学から分離して独自の分野になったのは、一八世紀以来のことで、経済学はその代表格なんだ。つまりアダム・スミスが「経済学の父」とよばれるのは有名だから知っているよね。そのスミスが『国富論』を書いたのは一七七六年のことで、これは本格的な社会科学という点で他分野にくらべて先駆的だといえる。これはやはり経済生活が人間にとってもっとも基礎的で大切だからだろう。

学生

そうか！経済学は社会科学のチャンピオンなのか。

教授

ある意味でそれは正しいかも知れない。その他社会科学には、法学・政治学・歴史学・社会学などがある。もっとも歴史学と社会学は人文科学という分野に分類する場合もある。人文科学、ヒューマニティーズとは、人類文化に関する学問の総称で哲学・文学・心理学・教育学など人間中心に研究する分野だ。

そうそう。経営学について少し補足し

ておこう。経営学は二〇世紀生まれの比較的若い学問だ。資本主義経済が発展し企業経営の役割や独自性が強まるにつれ、生産管理や経営方法をまとめ明らかにする経営学が、経済学から分離独立したものだ。そこで本学経済学部は経済・経営の二学科構成になっている。

学生

少し輪郭がつかめてきました。要するに学問全体は、自然・社会・人文という三科学分野に分かれる。そして経済学は社会科学の一つでその中心にある、と。

教授

うん。いいじゃないか！だから

君が経済学部に入ったということは、人々の社会生活を成り立たせるもっとも基礎的で中心的な学問を学べる場にいるということだ。もちろん現代では情報科学とか、従来の学問分類ではくりにくい新しい学問分野も発達しているし、応用科学である工学、テクノロジー領域もある。本学経済学部ではそれらも摂取して学べる体制を作っている。どう、スッキリしてきたかな？

学生

ありがとうございました。ストン！（これは彼が椅子から落ちた音ではなくて、話が胸に落ちた音である）。



石井 伸男 (いしひ のぶお)

経済学部教授。
1974年東京都立大学人文科学研究科博士課程単位取得。ヘーゲル、マルクスなどドイツ系の哲学思想史を学んだ。高崎経済大学教授。情報センター所長を兼任。専門は社会哲学で、社会意識とか知識人を主なテーマに仕事をしてきた。多趣味だが、もとのからの小説の濫読に加え、最近は囲碁にはまりインターネットで囲碁を打っている。